

セミナー通信

V o l . 2 7 9

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

2017 年度 卒 塾 生 理 想 の 勉 強 法

夏休み真っ盛りの八月です。2017年度卒塾生、どうしてもこの月に書いておかなければならない子がいます。なぜならば、その子はもう来月にはこの日本からいなくなってしまうから。行き先はカナダ。そう、留学です。10ヶ月の予定で来月彼女は出発します。

中1で入塾してきた彼女は、無邪気で自由に熱い心を持った子。楽しいこと、ふざけることが大好きで、いわゆる俗に言うガリ勉タイプには全く見えなかったのに、学校が始まってみれば成績はすこぶる優秀。3年間で定期テストでは14回学年トップを獲るという結果でした。

彼女の勉強のやり方はこんな風だったのです。まず「理解すること、わかること」、次に「覚えるべきことをきっちり覚えること」。勉強をする上で大切なこの二つのことがきちんと実行できていました。定期テストの前、理科や社会は内容を整理して細かくノートにまとめます。意味づけができ、頭の中が整理できたその後、覚えるべきだと判断したものは徹底的に覚えます。人に言われるからではなく、自分がすっきりしたくてやっていたこの勉強は、無駄が無く、いつも意味のあるものでした。ある時、自習をしていた彼女が突然、「だめだ。こんなのは勉強じゃない。作業だ。やめよう。」と言って、それまでやっていた何かをやめたことがあります。何かを書き写す時でさえも常に頭を使っていること、そんな風に時間を使う彼女にとって、その時やりかけたことは、いたずらに時間を消費するだけの意味の無いことだったのでしょうか。

彼女の強みは、その集中力にもありました。入試レベルの数学応用問題は、“理解した”だけでは時間内に解ききることは難しいのです。少しつまづきを感じたその時、これは根性で乗り越えました。入試本番までに塾の自習室と家で膨大な量の問題を解き、時間内に答案を作成する力をきっちり身につけたのです。この時の彼女は塾仲間の誰もが認める見事な集中力でした。

並外れた能力があったというわけではありません。もっと数学的センスの良い子、語学力のある子などたくさんいます。しかし、勉強法の理想がここにありました。計画性も含め、人は心持ちと取り組み方次第でここまで伸びるものなのだと彼女を見せてくれたのです。

中2の頃から心に宿った、“留学したい”という思い。その実現に向けて着々と準備を進めた彼女。留学生として文科省に選考してもらうのに申し分の無い内申をとってきたことも、また、帰国後復帰しやすいようにと志望校を千種高校にしたことも、全ては計画のうちです。

帰国後、彼女はどれだけ成長していることか。身につけたこの勉強法は、一生を通じてどこまでも彼女を伸ばすはずです。自分で自分を伸ばし、彼女は自分の手で夢をつかむでしょう。